

日本を救う中小企業100

ニューズウィーク日本版

定価450円

Newsweek®

日本を救う 中小企業

円高や不況に負けず
復興から高齢化、環境まで
未来を変える原動力とは

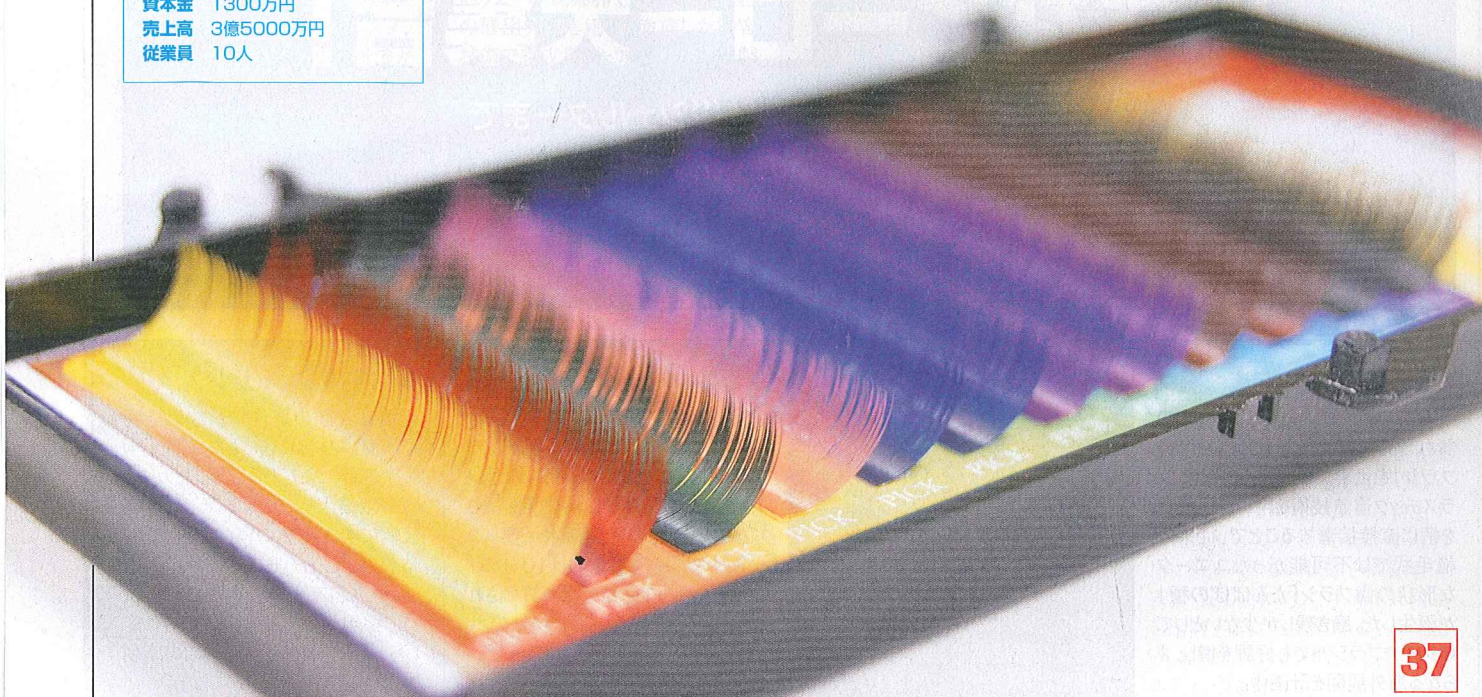
100



2011
12・7

二〇一一年十二月七日発行 毎週水曜日発行十二月二十日発売 第二六卷四十七号(雑誌)二七八号
昭和六十一年三月四日第三種郵便物認可

業種 まつげエクステ商材の製造卸
 本社 大阪府大阪市
 設立 2005年
 資本金 1300万円
 売上高 3億5000万円
 従業員 10人



37

まつエク革命で 女性に無敵の目ヂカラを 松風

黒以外のバリエーションも多い人工まつげ。繊維を使い1本ずつ国内で手作りしている

「まつエク」こと「まつげエクステンション（延長まつげ）」は、2〜3年前から日本でも注目される革命的なメイク法だ。化学繊維で作った人工まつげを1本1本顧客のまつげにのり付けすることで、まつげがより長く濃くなり、目が大きく見える。従来の付けまつげよりも仕上がりが自然な上に、効果が2〜3週間続くため、毎日の付け外しや、マスカラを塗るなどのメイクの手間も省ける。

美容大国・韓国で10年ほど前にまつエクが誕生すると、日本でも施術を行うサロンや商材メーカーが増え始めた。なかでも松風はこの新技術にいち早く目を付け、人工まつげや接着剤などの関連商材で日本一の売り上げを誇っている。

まつエクは世界の大半の国ではまだ普及しておらず、韓国と日本の企業が先を争ってアメリカ、ロシア、中国、オーストラリアなどに進出している。価格競争では日本に勝ち目はないが、商材の品質から施術者の腕、サービスの質まであらゆる面で日本のまつエクは世界一だと、松風の三本松征彦社長は胸を張る。

実際、まつエクは器用で繊細な日本人にうってつけの新産業だ。例えばポリエステル系の繊維を適当な長さに切りそろえて

本物のまつげのように先端を細くして……という細かい工程はすべて手作業。不良品も品質のバラつきもなく、そんな作業をこなせるのは日本ならではの。まつげにまつエクを付けるといふ難関もお手のもの。生えかけのまつげや抜けそうな毛を避け、接着剤が肌に触れないよう注意しながら、約0・1ミリの人工毛を根元をそろえて接着する。まつエクの本場・韓国で開催される施術コンテストでも、優勝者は日本人だった。

そして、サロンには笑顔と行き届いたサービスがある。日本人がニューヨークにサロンを開いたら、ホームページ開設や口コミだけで予約がいっぱいになった、という話も多い。

デリケートな目元の施術だけに、衛生状態には細心の注意が必要だ。数ある同業者の中で松風が日本一になれたのは、サロンのオーナーたちにミスをしないうコツや眼病の予防策を指導して信頼関係を築いてきたから。彼らが海外に進出する際に積極的に支援し、そこに商材を納めていくのが松風の拡大戦略だ。

オールジャパンのブランド力をテコにすれば、世界中の女性の目元をまつエクが飾る日も夢ではない。

千葉貴代子

COURTESY OF SHOFU